

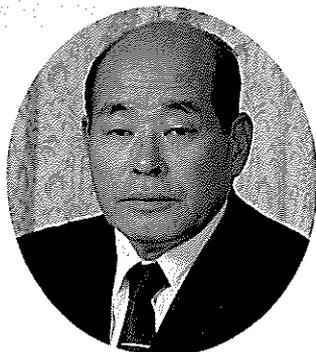
A black and white photograph showing the aftermath of a disaster. In the foreground, there is a large pile of debris, including what appears to be a damaged wooden structure. In the background, a multi-story building is visible, partially obscured by trees and other structures. The overall scene is one of destruction and desolation.

恐怖の集中豪雨

7.23 災害記録集

2

長崎県飯盛町



発刊によせて

飯盛町長 島田正良

「災害は忘れた頃にやってくる」と良く申しますが、昭和32年7月の諫早大水害から25年たった昭和57年7月23日、長崎県南部地方を襲った梅雨末期の典型的な集中豪雨は、夕方から深夜まで、激しく降り続き、飯盛町では時間雨量137%という驚異的降雨量を記録し、未曾有の集中豪雨となりました。

この集中豪雨で、飯盛町では死者18名、家屋の全(半)壊や床上(下)浸水、田畑の冠水、流失や埋没、道路の陥没や欠壊、及び河川の決壊など総額75億円をこす甚大な被害が、町内全域に発生しました。今回の災害では、山間部の集落、河川沿いの集落や開平野一帯の集落が特に被害が大きく、そのほとんどが山津波による土石流、河川氾濫による濁流や開平野の冠水によるものであり、本町の自然が、災害に対し、極めてもろいことを教えてくれたのです。

従って、これからは、山間部や崖の多い地区に対する急傾斜地崩壊対策、交通通信網の整備、避難体制の確立、自主防災組織の拡充強化、危険箇所や巡視箇所の見直し、河川氾濫の防止、樋門改修等総合防災対策を確立し、災害のない明るい飯盛町をつくりあげなければなりません。

あの大惨禍から1年半余の歳月が流れようとしているいま、改めて犠牲者のご冥福をお祈りし、謹んで哀悼の意を捧げ、被災者の皆様に心からお見舞い申し上げます。また、未曾有の大水害にあたり、全国各地から義援金、救援物資、数々の激励を賜った皆様、さらに救援活動や災害復旧作業に奉仕された自衛隊、消防団、婦人会、各種団体やボランティアの皆様、佐賀県や長崎県を始め、県内8町の皆様に、衷心より厚くお礼申し上げます。かつて経験したことのない大惨事で、悲しみの極にあった町民は皆様の善意によって、どれほど勇気づけられ、大きな励みになったことか図り知れません。

町では、多くの援助や協力を賜った皆様の温かい善意を無にすることがないように、国や県、及び関係当局の絶大なるご協力とご援助を仰ぎながら、現在8千町民の総力を結集して、災害復旧事業に取り組み、順調に進捗しているところであります。

この記録集が、大水害の一端を後世に伝え、防災意識の昂揚と災害防止の一助となれば幸いです。

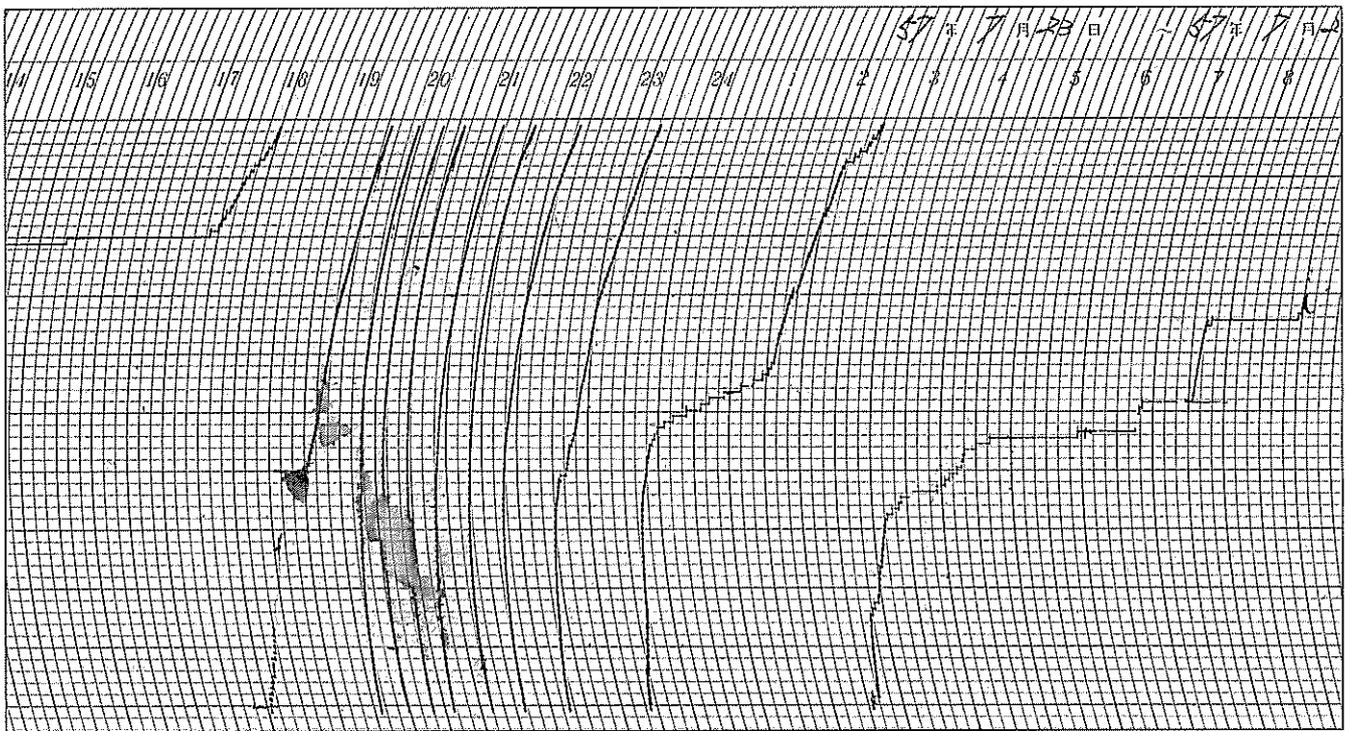
昭和58年12月

目次

写真集	1～15
町内被害状況	16
災害対策本部	17～25
応援の救援活動	25
町消防団・婦人会活動	25
豪雨時の防災対策	26
義援金をお寄せ頂いた方々	27～28

時間雨量

137mm



(町建設課の雨量計自記紙)

7月23日、長崎県南部地方を襲った集中豪雨は、梅雨末期の典型的な集中豪雨で、短時間の降雨の強さでは日本の観測史上最大級のものであった。

飯盛町の雨量計は午後8時から午後9時までの時間雨量137mmという驚異的降雨量を記録し、町内各地域に甚大な被害が発生した。



山津波が発生した古場名補伽地区
一瞬にして15名の生命が奪われた



▲山津波が住家をひと呑みに——多量の土砂や流木の中で救出作業が続く（古場名補伽地区）



▲土砂の除去作業にあたる消防団員（古場名補伽地区）

▼流出した土砂や巨木で道路や川のあとかたもない（古場名補伽地区）





▲泥海と化した開平野，床上浸水家屋は200戸をこえた



▲濁流が二階まで，救助活動にボートを使用（後田名城下地区）



▲24日まで道路も冠水（後田名城下地区）



▲多量の土砂や流木に押し流され散乱した車（古場名補伽地区）



▲山津波で豚舎と被害にあった豚の死骸（古場名補伽地区）



▲道路を塞ぎ、川を塞ぎ、家を呑み込んだ多量の土砂や流木の中で救出作業にあたる自衛隊員（古場名補伽地区）



▲悲しみの中に遺体の収容（古場名補伽地区）

▼流木や巨石を取り除き、行方不明者の発見に全力をあげる自衛隊員（古場名補伽地区）

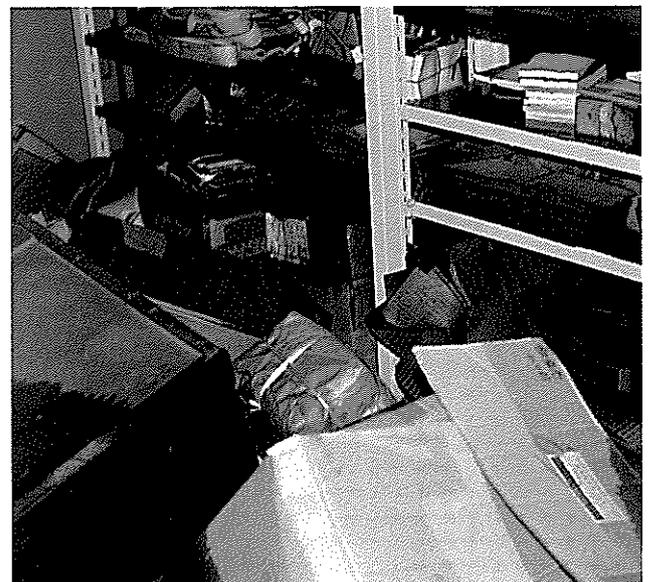




▲小島名も冠水，74戸が床上浸水の被害



▲清掃作業に忙しい郵便局員（飯盛郵便局）



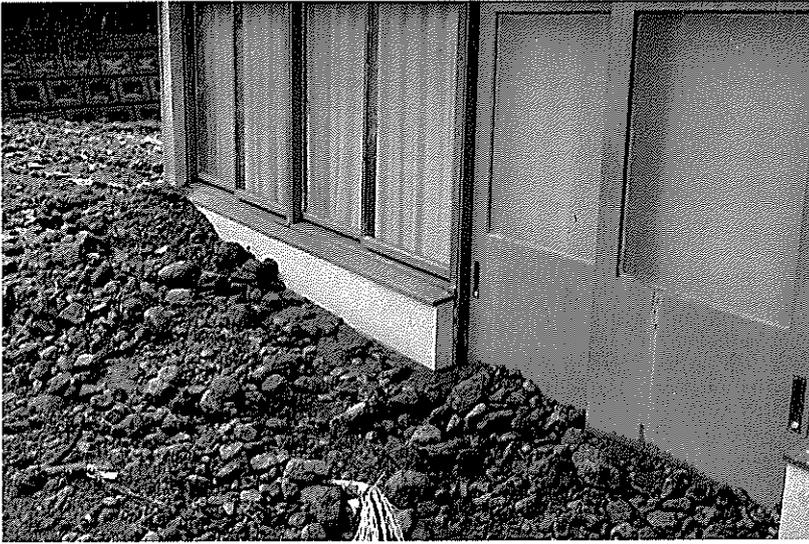
▲通常郵便や小包郵便も冠水（飯盛郵便局）



▲裏山の崖崩れで体育館に押しよせた土砂(飯盛中学校)



▶濁流が流入し、床板がはがれた職員室(飯盛西小学校)



◀土砂に埋もれた1・2年生の教室（飯盛西小学校）



▲流入した枝庭の土砂の高さは35cm（飯盛西小学校）



▲流入した雑木の除去作業をする消防団員（飯盛西小学校）



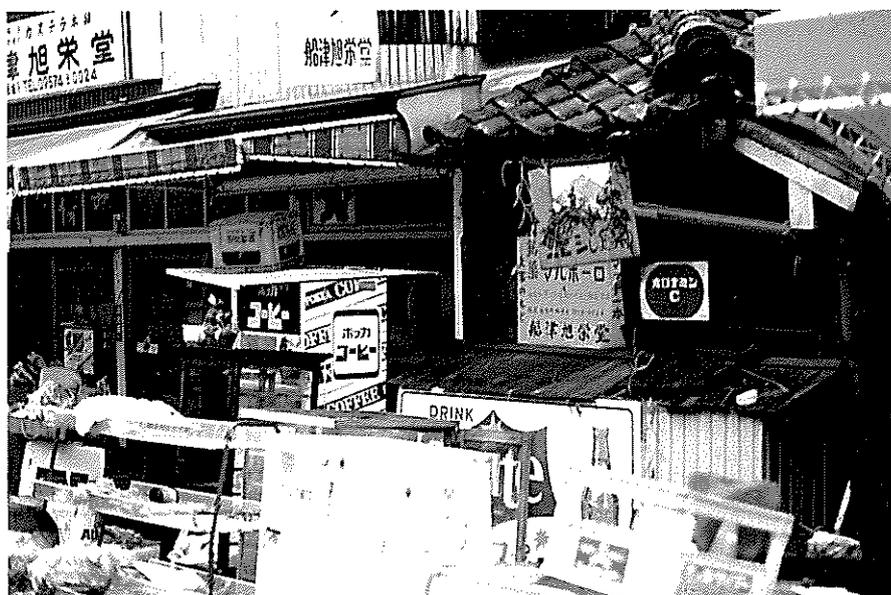
▲裏山の山津波で土石流が流入，校庭は無残な姿となった（飯盛西小学校）



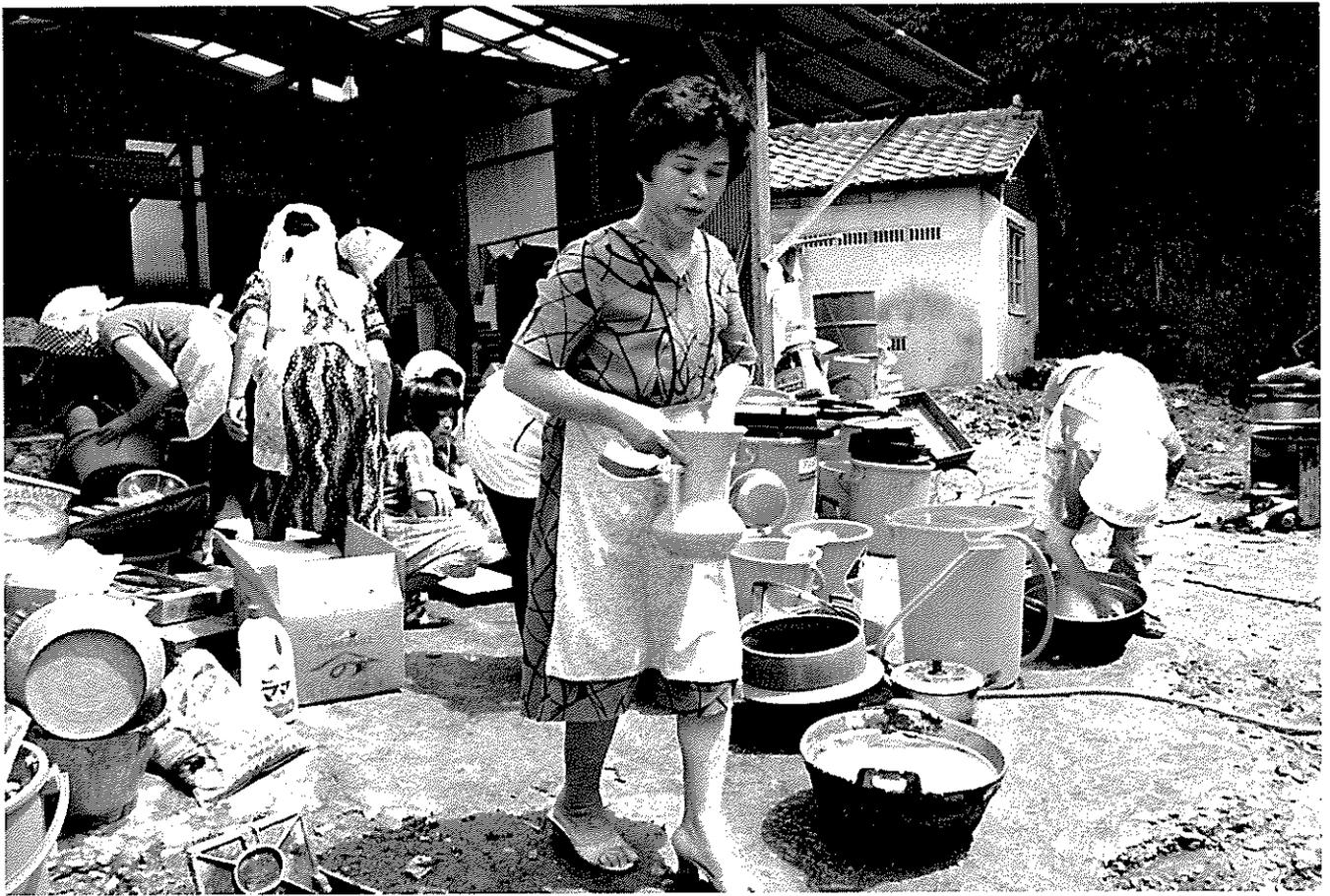
◀冠水商品の整理におわれる
商店（後田名城下地区）



▲清掃に励む商店、この付近は2階まで浸
水した家屋もあった（後田名城下地区）



◀冠水したショーケースが道路
に山積（後田名城下地区）



▲炊き出しに活躍する婦人会（寺平名西明寺）



◀▼家具・寝具・日用品も冠水，こうした風景は各地でみられた（後田名城下付近）





◀ 県議会被害調査団に被害状況を説明する町長，町議会



▲ 空から救援物資が届く（町民グラウンド）

● 救援物資の状況

食糧品	日用品	衣類・寝具・その他
米、うどん、缶詰、ハムソーセージ、ジュース、スープパン、インスタントラーメン塩等	タオル、石ケン、手袋、陶器靴、サンダル、バスタオル救急用品、ティッシュペーパー等	シーツ、毛布、ベビー用品（オムツ外）、シャツ、布団作業衣、その他の衣類タバコ等



◀飯盛町7・23大水害死者合同葬会場（寺平名西明寺）



▲犠牲者の冥福を祈り、弔辞を読む町長（寺平名西明寺）



◀級友も最後の別れに参列（寺下名西明寺）



▲暗渠がつまり、道路を濁流が横断したため道路が欠壊（町道古場三本松線平古場名付近）



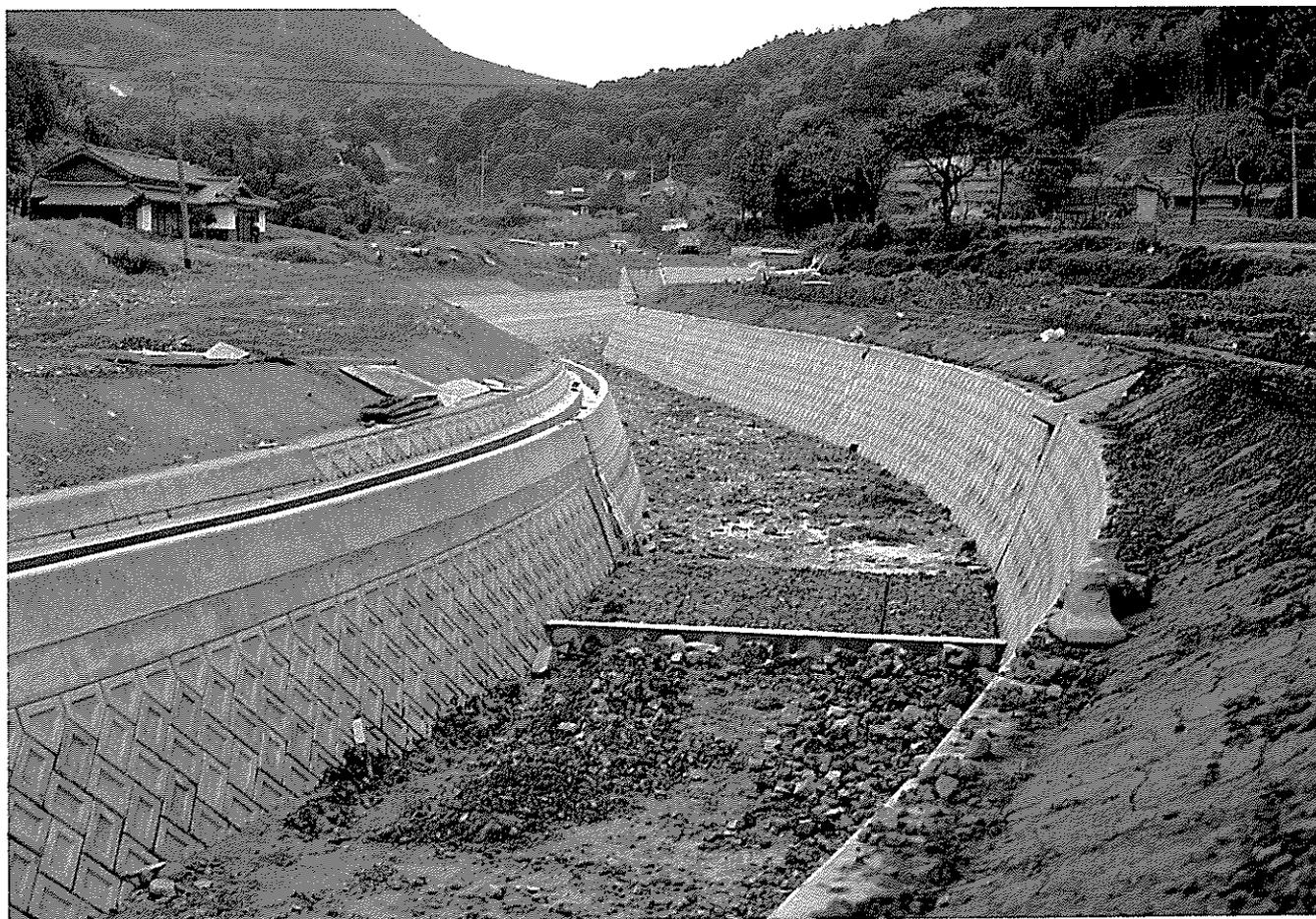
▲濁流で護岸が決壊、付近の田は石の山となった（山口川）



▶道路欠壊でガードレールも曲がってしまった（国道251号線池下名付近）



▲木復旧へ——急傾斜地崩壊対策工事が進む（古場名上園地区）



▲河川改修工事で改良が済んだ田結川上流（古場名宮ノ前地区）

町内被害状況

7.23 長崎大水害による本町の被害は、人的被害（死者18名）のほか、物的被害も総額7,533,432千円に達した。物的被害のうち家屋は、全壊19世帯、半壊34世帯、床上浸水225世帯、床下浸水200世帯、被害額157,500千円、農林水産関係で田畑の流出、冠水など3,783,786千円、土木で道路決壊など2,965,827千円、商工で384,706千円、文教は学校施設24,000千円、その他の被害217,613千円であった。

被害状況 58. 8. 10現在（単位千円）

区分	10日 10時現在			
	単位	被害数量	金額	
人的被害	死者	1人	18	
	行方不明者	2人	0	
	重傷者	3人		
	軽傷者	4人		
	計	5人	18	
家屋	全壊(焼)	棟	19	47,500
		世帯	19	
		人	78	
	半壊(焼)	棟	34	51,000
		世帯	34	
		人	159	
	一部破損	棟	50	7,500
		世帯	50	
		人	210	
	床上浸水	棟	225	22,500
		世帯	225	
		人	922	
	床下浸水	棟	200	16,000
世帯		200		
人		820		
非住家	公共建物	棟		
	その他	棟	164	13,000
計			157,500	
農	田	流出・埋没	14ha	450,000
		冠水	15	80
		流出・埋没	16	
	畑	冠水	17	
		農地農業用施設	18カ所	1,370
	農産物	19トン	690	154,000
	畜産物	20	57	30,800
林	林地林産施設	21カ所	11	561,000
	林産物	22トン	210	11,156
	計	23		3,716,956
	水産	漁船	24隻	
一般船舶		25		

水産	漁港	26カ所	1	50,000
	水産物・その他	27トン	4	16,830
	計	28		66,830
土木	道路	29カ所	220	413,012
	橋梁	30	5	20,000
	河川	31	156	2,532,815
	海岸	32		
	砂防	33		
	港湾	34		
	計	35		2,965,827
商工	通信施設	36件		
	鉄道不通	37		
	商工被害	38	72	384,706
	計	39		384,706
文教	病院診療所等	40棟	2	10,000
	水道施設	41カ所	18	6,000
	清掃施設	42	1	1,000
	計	43		17,000
	学校	公立	44	2
私立		45		
その他		46		
計	47		24,000	
その他	がけくずれ	48カ所	200	200,000
	地すべり	49		
	その他	50		613
	計	51		200,613
被害総額	52		7,533,432	

地区(名)別被害状況

地区名(名)	死者人	全壊		半壊		床上	
		世帯	人員	世帯	人員	世帯	人員
後田		1	2	2	8	61	244
船津						20	75
下釜						30	109
久保	1	2	2	9	12	51	
佐田						2	11
小島						74	293
平古場		1	6			1	7
石原						2	8
山口						1	7
開		1	2	2	11	1	6
上原							
池下							
清水	1	2	5	8	36	11	48
寺平				1	7		
田平	2	1	2	2	8	8	52
川下		1	6	2	11	2	11
古場	15	11	53	15	69		
計	18	19	78	34	159	225	922

災害対策本部

(設置 7月23日17:00)
(解散 7月31日12:00)

飯盛町では、7月23日午後4時50分大雨洪水警報が発令されるやいなや、役場内に災害対策本部を設置し、町職員が第1配備体制にはいり、危険箇所の巡視や、大雨に対する注意、警戒を呼びかけていたが警報発令後1時間を経過した頃より急速に雨足が早まったため、直に第3配備体制に移行するとともに全町職員を非常招集し、さらに町消防団269人全員に出勤命令を発した。

職員や消防団員は対策本部の指示によって、担当地区や分団内における被害発生状況の把握、危険箇所の巡視、避難者の誘導等にあたった。

午後8時を過ぎた頃から町内各地より、家屋の倒壊や床上・床下浸水、河川の氾濫、崖崩れ等の被害を知らせる電話が相ついだ。

時間が経過するにつれ、被害は甚大であることが判明したため、緊急本部員会議を開催し、応急復旧、炊き出し、水問題、被災者の救援救助活動等当面する問題について協議した。

総務対策部

災害対策本部が設置されると本部の庶務を始め、各部(班)の連絡調整や関係機関、団体に対する協力並びに応援要請を行った。

総務日誌

7月23日(金)	
16:50分	大雨洪水警報発令さる
17:00	飯盛町災害対策本部設置 本部員待機
18:00	消防団長、分団長に出勤待機要請
19:00	全町職員(第3配備)消防団に出勤命令を出す
20:30	役場の雨量計、時間雨量137mmを記録する 町内各地より被害通報入る ボートで救助活動開始
21:00	行方不明者の第1報入る
22:40	江ノ浦漁港が満潮となり、開平野一帯は泥海となる 被災者、通行人(車)避難する (町民センター、各部落公民館)
7月24日(土)	
0:05分	行方不明者の通報次々に入る

5:00分	救助活動、被害調査開始
6:00	消防団出勤(269名)
6:25	県災害対策本部へ報告(第1回)
6:30	災害救助法適用される
9:00	県社会課へ自衛隊の出勤要請
9:00	飲料水の給水開始
9:00	婦人会の出勤要請(炊き出し)
12:00	教育施設の被害調査開始
13:00	婦人会炊き出し開始(町内10ヶ所)
18:00	救援物資の配付開始 夕方までに5遺体収容
7月25日(日)	
5:30分	自衛隊救援に来町 陸上自衛隊小倉普通科連隊720名 車両90台 陸上自衛隊大村部隊給水班12名 給水車4台
6:00	自衛隊救助活動開始
8:00	消防団、建設協力会出勤
8:00	給水活動、炊き出し開始
9:00	防疫班出勤 5遺体収容 遺体を火葬する 救援物資配付
13:00	
7月26日(月)	
7:00分	自衛隊救助活動開始
7:00	消防団、建設協力会出勤
7:00	炊き出し開始
8:30	防疫活動、給水活動開始
8:30	救援物資の配付開始 遺体を火葬する
10:00	九州農政局から被災状況視察(2名)
11:30	建設省から " "(")
14:00	5遺体収容 県から文教施設被害調査 夕方までに一部を除き電気復旧 " 水道復旧
7月27日(火)	
7:00分	自衛隊救助活動開始
8:00	消防団、建設協力会出勤 炊き出し、防疫活動、給水活動開始
11:00	県より被害状況調査応援に来町(3名)
12:00	隣接町の消防団に救助活動を要請 自衛隊給水活動応援完了 2遺体収容
15:00	県出納長被災地視察
17:00	自衛隊救助活動完了
7月28日(水)	
7:30分	消防団出勤
8:00	北高3町消防団救援活動のため来町 口ノ津警察署から救助活動応援(12名) 建設協力会出勤 古場名、給水活動

8:30分 18:00	防疫活動 長崎県知事被害状況視察 陳情書提出(7.23災害早期復旧)
7月29日(木) 7:30分 8:30 8:30 8:30 8:30 11:00	消防団出動 防疫活動開始 給水活動開始 建設協力会出動 炊き出し開始 最後の遺体発見取容 本部員会議 8月3日に合同葬決定 遺体を火葬する 警察作業隊完了 救援物資配付
7月30日(金) 8:30分 8:30 8:30 17:00	防疫活動開始 給水活動開始 炊き出し開始 救援物資受領 中央より3代議士被害状況視察
7月31日(土) 8:30分 8:30 8:30 12:00	防疫活動開始 給水活動開始 炊き出し開始 弔慰金支給 災害対策本部解散

税務対策部

被災納税者に対する被害調査を実施し、町税については条例の一部改正で、国保税については新たに条例を制定して納期延長や減免を実施した。

① 減免状況 (単位：人、千円)

区 分	納税義務者	減免税額
町民税(所得割額)	112	1,350
固定資産税	土地	118
	家屋	196
	小計	314
国民健康保険税	111	6,189
合計	537	9,099

(注) 避難等に伴う公営住宅等の貸与による減免も含む

② 納期限延長状況 (単位：人、千円)

区 分	納税義務者	納期限延長税額
固定資産税	481	3,783
国民健康保険税	236	3,154
合計	717	6,937

町民対策部

被災者への救援物資の配付、炊き出し、避難所の設置取容、義援金の配分、応急仮設住宅等住民相談の中心窓口として対応した。

日誌

7月24日(土)	補伽地区住民63名避難 各地区被害調査
7月25日(日)	救援物資受領(本田ふとん店) 救援物資受領(西友ストア外) 諫早火葬場で3遺体火葬する 全壊世帯へ救援物資配付
7月26日(月)	救援物資受領(日本専売公社外) 高来町火葬場で1遺体火葬する 小浜町火葬場で3遺体火葬する 全・半壊世帯へ救援物資配付
7月27日(火)	救援物資受領(マズプロアンテナKK外) ヘリコプターで救援物資届く 諫早火葬場で7遺体火葬する 全・半壊世帯へ救援物資配付
7月28日(水)	救援物資受領(日赤) 救援物資仕分
7月29日(木)	床上浸水世帯へ救援物資配付 救援物資仕分
7月30日(金)	諫早火葬場で1遺体火葬する 救援物資受領 全地区果物類配付 常番保育園被害調査(県児童保育課より来町)
7月31日(土)	小島名婦人部応援仕分(4名) 古場地区仮設住宅建設打合せ会 災害弔慰金支給 救援物資受領仕分
8月1日(日)	救援物資受領仕分 全壊世帯救援物資配付
8月2日(月)	応急仮設住宅現地案内(県住宅課4名) 救援物資仕分(小島名より4名応援) 半壊世帯救援物資配付
8月3日(火)	救援物資仕分 合同葬儀参列
8月4日(水)	救援物資受領(福祉事務所外) 床上浸水世帯救援物資配付
8月5日(木)	諫早土木事務所主催住宅相談所開設 期間8月5日～10日
8月6日(金)	有家町民生委員災害見舞のため来町 住宅相談所公報
8月7日(土)	救援物資諫早駅にて受領
8月9日(月)	救援物資受領(小包大小27コ)
8月10日(火)	救援物資諫早駅にて受領 " 受領(日赤)
8月11日(水)	救援物資諫早駅にて受領
8月12日(木)	" (小包6コ)
8月13日(金)	仮設住宅入居
8月14日(土)	救援物資受領(小長井町外)
8月19日(木)	救援物資受領(諫早農協より米16俵)

8月20日(金)	救援物資受領(日赤4t車2台)
8月21日(土)	救援物資仕分
8月22日(日)	救援物資仕分
8月23日(月)	救援物資仕分(小島名より10名応援)
8月24日(火)	全・半壊世帯救援物資配付 東地区床上浸水世帯救援物資配付
8月25日(水)	西地区床上浸水世帯救援物資配付
8月30日(月)	救援物資受領(小包4コ)
8月31日(火)	救援物資受領(日赤, 2t車1台バン1台)
9月2日(木)	救援物資県庁にて受領
9月11日(土)	救援物資仕分
9月12日(日)	救援物資仕分, 配付
9月13日(月)	救援物資仕分, 配付
9月14日(火)	救援物資配付
9月24日(金)	救援物資受領 義援金配分委員会開催
10月9日(土)	救援物資仕分 全壊世帯救援物資配付

① 避難

記録的な豪雨にみまわれた本町では、被災者や危険箇所付近の皆さんを避難所に収容し、食事は婦人会の炊き出しの協力によってまかなった。

避難所設置及び収容状況

避難所名	期 間	実人員	延人員
町民センター	7月24日～8月6日	63人	882人
西明寺	7月24日～8月3日	9	99
田結支所	7月23日～7月24日	13	13
古場公民館	7月24日	28	28

② 炊き出し

家屋の全壊、半壊世帯や危険箇所付近の避難者に対して7月24日から8月6日まで14日間行った。

○場所 町民センター・各部落公民館・寺社

○人員 延1,500人

○使用米 859kg 292,860円

○炊き出し者 町民対策部女子職員

給食センター "

婦人会

③ 救援物資

救援物資は7月24日本田ふとん店から初めて届けられたから10月まで全国各地から日用品や食糧品が次々と送られてきた。早速物資の仕分け作業を行い、全壊・半壊世帯に必要なものを直に配付し、その後、順次被災世帯に配付した。なお、救援物資の仕分け作業には小島名婦人部の協力をいただいた。

○日赤を通じて受領した救援物資7,621点

○郵便 " " 130点

④ 災害弔慰金の支給

名	支給人員	支給額
清水名	1人	1,500千円
田平名	2	3,000
古場名	9	13,500
合計	12	18,000

○1人当1,500千円

○町条例に基づき7月31日支給

⑤ 災害援護貸付金

名	貸付件数	貸付金額	貸付月日	利率
後田名	1	600千円	11月13日	3%
船津名	1	600	11月13日	3
下釜名	3	1,800	11月13日	3
平古場名	1	1,200	11月13日	3
清水名	1	800	11月13日	3
合計	7	5,000		

⑥ 仮設住宅

流出全壊した世帯を対象に長崎県が選定し、小島名に2棟、清水名に1棟建設した。

仮設住宅入居状況

建設地	構 造	面 積	入居人員	入居月日
小島名	プレハブ平屋建	20.12㎡	3	8月13日
清水名	"	"	2	8月13日

⑦ 災害義援金

集中豪雨で甚大な被害を受けた本町に全国各地からあたたかい義援金が18,745,000円寄せられた。

本町に寄せられた義援金と県災害義援金配分委員会から配分された義援金39,408,400円と合わせた総額は58,153,400円となった。なお、受付、保管は出納対策部が行った。

町では、9月24日、飯盛町災害義援金配分委員会を開催し、人的被害(死者、重傷、軽傷)と住家被害(家屋全・半壊、床上浸水)にわけて義援金配分額を算定し、支給した。

衛生水道対策部

① 水道班

23日午後8時頃から停電となり、町内各地は道路の寸断や河川の氾濫、崖崩れの被害が相次いだため、送水管、配水管が破損した。このため断水世帯1,908戸、人口7,333人に達した。

24日から給水車による給水を始め、25日には自衛隊大村部隊の給水班が到着し、断水地区に給水した。又、応急復旧にも努め、布晒地区1,310戸は25日17時まで復旧した。

水道日誌

7月24日(土)	布晒簡水 (1,310戸) ボランティア給水車による給水 民間借上給水車による給水 } 給水量 9 m ³ 田結簡水 (491戸) ボランティア給水車による給水 民間借上給水車による給水 } 給水量 3 m ³ 被災状況調査 古場簡水 (107戸) 民間借上給水車による給水 (給水量 1 m ³) 被災状況調査
7月25日(日)	布晒簡水 (1,310戸) 自衛隊大村部隊給水班による給水 民間借上給水車による給水 } 給水量 10 m ³ 17:00 応急復旧完了し、平常給水開始 田結簡水 (491戸) 自衛隊大村部隊給水班による給水 民間借上給水車による給水 } 給水量 8 m ³ 古場簡水 (107戸) 民間借上給水車による給水 (給水量 8 m ³) 被災状況調査

7月26日(月)	田結簡水 (491戸) 自衛隊大村部隊給水班による給水 民間借上給水車による給水 } 給水量 7 m ³ 応急復旧作業開始 12:00 70戸 応急復旧完了し平常給水開始 古場簡水 (107戸) 民間借上給水車による給水 (給水量 3 m ³) 応急復旧作業開始
7月27日(火)	田結簡水 (421戸) 自衛隊大村部隊給水班による給水 民間借上給水車による給水 } 給水量 7 m ³ 18:00 307戸 応急復旧完了し平常給水開始 応急復旧作業実施 古場簡水 (107戸) 民間借上給水車による給水 (給水量 1 m ³) 応急復旧作業実施 17:00 86戸 応急復旧完了し平常給水開始
7月28日(水)	田結簡水 (114戸) 民間借上給水車による給水 (給水量 3 m ³) 応急復旧作業実施 18:30 114戸 応急復旧完了し平常給水開始 古場簡水 (21戸) 民間借上給水車による給水 (給水量 1 m ³) 応急復旧作業実施
7月29日(木)	古場簡水 (21戸) 民間借上給水車による給水 (給水量 1 m ³) 応急復旧作業実施
7月30日(金)	古場簡水 (21戸) 民間借上給水車による給水 (給水量 1 m ³) 応急復旧作業実施
7月31日(土)	古場簡水 (21戸)

7月31日(土)	民間借上給水車による給水（給水量 1 m ³ ） 応急復旧作業実施 20：00 21戸応急復旧完了し平常給 水開始 給水車による給水完了
----------	--

給水車による応急給水状況

区 分 月 日		自給 衛水 隊車	民給 間水 借 上車	ホ給 ラン 水 テ イ ア車	合 計	従 事 人 員
7月24日	台 数		4	1	5	11人
	水量m ³		4	9	13	
7月25日	台 数	3	4	1	8	19人
	水量m ³	4	4	18	26	
7月26日	台 数	3	6		9	19人
	水量m ³	4	6		10	
7月27日	台 数	3	4		7	15人
	水量m ³	4	4		8	
7月28日	台 数		4		4	8人
	水量m ³		4		4	
7月29日	台 数		4		4	8人
	水量m ³		4		4	
7月30日	台 数		1		1	2人
	水量m ³		1		1	
7月31日	台 数		1		1	2人
	水量m ³		1		1	
合 計	台 数	9	28	2	39	84人
	水量m ³	12	28	27	67	

② 衛生班

集中豪雨によって、開平野が冠水し、又河川の氾濫などにより住家被害が500戸を超えたため、伝染病の発生を未然に防止するよう懸命の防疫活動を実施した。

被害をうけた家屋や周辺の溝、ゴミ集積場には、クレゾール石ケン液の3%溶液を散布し、タタミ消毒として生石灰、又食器消毒にはオスバン液を配付した。

- 雇上人夫延65人
- 車借上台数延28台
- 消毒用機械20台
- クレゾール石ケン液1,000本
- 生石灰314袋
- オスバン液120本
- 燃料費220,713円
- 防疫事業経費1,783,903円

防 疫 日 誌

7月24日(土)	災害状況調査 消毒用薬品手配
7月25日(日)	クレゾール溶液散布（68戸） 上原名南部から後田名城下、江ノ浦 漁協付近 オスバン液配付
7月26日(月)	クレゾール溶液散布（292戸） 後田名城下、小島名、久保名、下釜 名、船津名、池下名、田平名、清水 名
7月27日(火)	クレゾール溶液散布（41戸） 災害ゴミ集積場、古場名、東地区の 消毒漏れ家屋 生石灰配付 東地区浸水家屋 駐在員会議で被災後の食生活の指導依 頼と防疫活動の状況報告 諫早保健所から伝染病予防に対する検 病調査、指導のため来町（予防課長、 保健婦2名）
7月28日(水)	クレゾール溶液散布（4戸） 保育園、古場名補伽、消毒漏れ家屋 生石灰配付
7月29日(木)	クレゾール溶液散布 ゴミ集積場 生石灰配付
7月30日(金)	クレゾール溶液散布（11戸） 消毒漏れ家屋
7月31日(土)	クレゾール溶液散布（9戸） 山口名中山、野中、平古場名

防疫活動状況

区分 月日	第1班		第2班		第3班		合 計	
	作業 人員	消毒 戸数	作業 人員	消毒 戸数	作業 人員	消毒 戸数	作 業 人 員	消 毒 戸 数
7月25日	6	28	5	20	5	20	16	68
26日	12	100	12	97	12	95	36	292
27日	6	17	5	12	5	12	16	41
28日	3	4					3	4
29日								
30日	3	11					3	11
31日	3	9					3	9
合 計	33	169	22	129	22	127	77	425

飯盛町汚水処理施設被害状況

項 目	台数等	備 考
ブロー 発電機	3 台	施設冠水のため
各種ポンプ	1 台	〃
配電盤	一式	〃
災害復旧事業費	896,240円	

ゴミ処理

今度の災害によって床上・床下浸水家屋や半壊、一部破損家屋からは、泥水をかぶったタタミや衣類、日用品、壊れた家具等多数のゴミが出た。

多量のゴミを処理するため、町建設組合の土砂捨場に

集積し、可燃物は焼却し不燃物は埋立処分した。

- ゴミの総量 11,300m³
- 雇上人夫 延32人
- 車借上台数 延17台
- フォークリフト借上台数 延3台
- ユニック車借上台数 延2台
- ゴミ処理事業経費 611,600円

経済対策部

今回の豪雨によって、農地、鶏舎、豚舎、養殖場、山林、商店街も被害をうけ、農産物では154,000千円、畜産物は豚や鶏を主に57t 30,800千円、植林した杉や檜210t 11,156千円、商店では、建物や冠水商品の被害額が、384,706千円に達し、被害農林漁家や商工業者は大きな打撃をうけた。

町では災害資金借入窓口を設置し、被災者に対して各種相談に応じたり、制度資金を積極的に活用し、災害資金借入者の負担軽減を図った。また、山地崩壊によって被害をうけたため、緊急（復旧）治山事業や自然災害防止事業を県、町で実施し、災害復旧に努めた。

災害融資資金借入状況

資 金	借 入 者	金 額	利 率	利子補給	(内訳)	償還期間	備 考
天 災 資 金	36人	31,000千円	3 %	6 %	国 3.9% 県、町1.05	7 年	農 林
自作農維持資金	10	14,500	4.6	—	—	20(3)	農 委
中小企業災害復旧資金	18	85,500	3(3ヶ年)	2.5	県2/3 町1/3	7(1)	商 工
国民金融公庫	52	203,500	3(〃)	—	—	10(2)	商 工
合 計	116	334,500					

()内は据置期間

緊急治山事業

(57年度)

地 区	事 業 費	工 期	事 業 概 要	事 業 主 体
補伽(1)	33,252千円	57年10月12日 58年3月25日	谷止工2基 287.7m ² 伏工 120m ² 土留工5基78.5m 水路工 170.6m さく工 1,746m 法切工 303.2m ²	長崎林業事務所
補伽(2)	24,542	57年10月22日 58年3月25日	谷止工1基 166.4m ² 伏工 3,318m ² 土留工3基52.0m 附帯工44.9 法切工 386.2m ² (水路工)	全 上
合 計	57,794			

復旧治山事業

(58年度)

地 区	事 業 費	工 期	事 業 概 要	事 業 主 体
大 船	3,648千円	58年8月19日 59年2月24日	谷止工1基 368.3m ²	長崎林業事務所

自然災害防止事業

地区	事 業 費	工 期	事業概要	実施年度	事業主体
寺平	6,500千円	58年1月17日 58年3月20日	土留工46.5m 水路工34.5m 伏工1,093.3m ²	昭和57年度	飯盛町
古場	1,669	58年1月17日 58年2月25日	土留工28.5m 水路工48.5m 伏工 624.7m ²	全 上	全 上
山口	2,067	58年1月17日 58年2月25日	土留工24.0m 水路工25.5m 伏工 451.3m ²	全 上	全 上
野中	3,648		土留工30.0m フェンス工H=1.0m 伏工 324.9m ²	昭和58年度	全 上
合計	13,884				

資金借受用被害証明発行状況

資 金	件 数
県 災 害 資 金	39(6)
国民金融公庫	57(3)
合 計	96(9)

()内は町外居住者

建設対策部

農林省所管農地、農業用施設災害及び建設省所管公共土木災害の調査は、地区駐在員、地区被害調査担当職員、建設課職員であった。56年災害では農地農業用施設99箇所 120,919千円、公共土木 199箇所 504,307千円の被害であったが、今度の災害は、56災と比較にならない程大きく農地農業用施設 1,770箇所 2,960,000千円、公共土木 381箇所 2,965,827千円にものぼった。

町・県道に流出した土砂、流木の除去、仮設道路の建設、仮設橋の建設、家屋に流出した土砂の除去及び河川異常埋塞の除去等、応急復旧は町建設組合の協力をえて8月中には完了した。

被害額 5,925,827千円の57災本格復旧事業実施のため、

公共土木災害査定日誌

8月26日～	第1次災害査定 普通河川天神川②外9箇所 申請額 27,178千円
9月13日～	第2次災害査定 普通河川権現川外99箇所 申請額 241,089千円
10月16日～	第3次災害査定 普通河川城山川外33箇所 申請額 528,930千円
11月15日～	第4次災害査定 普通河川中山川①外98箇所 申請額 592,708千円
12月13日～	第5次災害査定 普通河川権現川①外128箇所 申請額 671,544千円
計 372箇所 申請額 2,061,449千円	

8月2日から、長崎県、佐賀県外県内8町の応援職員を求め、災害査定設計書作成事務に当たった。また、11月には4人の技術職員を採用した。さらに、膨大な査定設計書作成のため外注委託し、委託費は102,351千円であった。

農林災害査定日誌

8月19日～	第1次災害査定 早坂（Ⅰ）道路外48箇所 申請額 83,888千円
9月1日～	第2次災害査定 温泉田（Ⅲ）水路外46箇所 申請額 57,219千円
9月17日～	第3次災害査定 上前田（Ⅱ）水路外84箇所 申請額 136,875千円
10月4日～	第4次災害査定 塚原（Ⅱ）水路外44箇所 申請額 101,210千円
10月30日～	第6次災害査定 山開（Ⅰ）水路外90箇所 申請額 282,298千円
11月19日～	第7次災害査定 東北請（Ⅱ）道路外82箇所 申請額 465,976千円
11月29日～	第8次災害査定 佐田江（Ⅰ）頭首工外35箇所、 申請額 152,827千円
12月21日	第10次災害査定 岩本道路外5箇所 申請額 12,686千円
計 442箇所 申請額 1,292,979千円	

災害査定関係状況

(単位：千円、%)

公 共	被 害			査定申請		査定決定		国 庫 補助率	57年度施工(含繰越)		57年度 消化率
	区 分	箇 所	被 害 額	箇所	申 請 額	箇所	決 定 額		箇所	事 業 費	
公 共	河 川	156	2,532,815	130	1,625,308	126	1,359,663	98.9	65	767,642	59
	道 路	220	413,012	230	380,873	224	338,395		144	231,626	
	橋 梁	5	20,000	12	55,268	12	53,063		11	32,161	
	小 計	381	2,965,827	372	2,061,449	362	1,751,121		220	1,031,429	
関 連	河 川			6	680,189	6	540,302	84.7	6	223,141	41
	小 計			6	680,189	6	540,302		6	223,141	
農 林	農 地	400	450,000	124	112,467	122	104,215	95.4	98	83,372	63
	農業用施設	1,370	2,510,000	318	1,180,512	306	1,067,775	99.3	136	651,117	
	小 計	1,770	2,960,000	442	1,292,979	428	1,171,990		234	734,489	
合 計		2,151	5,925,827	820	4,034,617	796	3,463,413		460	1,989,059	57

— 県 事 業 —

緊急急傾斜地崩壊対策事業

58.3.31.現在

地 区	事 業 費	事 業 主 体
道 原	10,600千円	長崎県諫早土木事務所
上園(2)	42,300	全 上
上園(1)	47,800	全 上
田 尻	14,800	全 上
園	25,000	全 上
補伽(2)	78,050	全 上
西大門	34,000	全 上
湯 穴	15,800	全 上
古 野	22,700	全 上
葛 畔	20,875	全 上
堀	16,600	全 上
合 計	328,525	

応援派遣職員状況

	派遣機関	人数	派 遣 期 間	延日数
公 共	長崎県	7人	8月3日～10月1日	200日
	佐賀県	2	10月12日～10月29日	34
	奈良尾町	1	9月3日～9月30日	27
	巖原町	3	8月31日～10月1日	48
	吉井町	1	9月30日～10月15日	15
	川棚町	1	10月4日～10月31日	27
	波佐見町	3	10月4日～10月30日	23
	小 計	18		374
農 林	長崎県	1	8月2日～8月12日	10
	県北振興局	1	8月2日～8月12日	10
	県諫早耕地事務所	9	8月2日～11月6日	341
	小長井町	3	10月16日～11月10日	23
	高来町	1	10月21日～10月31日	10
	森山町	1	10月18日～11月18日	30
	小 計	16		424
	合 計	34		798

教育対策部

今度の集中豪雨は教育施設にも容赦なく被害をもたらした。なかでも飯盛西小学校は裏山から山津波が発生し、又、田結川の氾濫によって濁流が流れ込み、校舎を始め、体育館、プール、校庭は、土砂や濁流で、施設が破壊された。さらに飯盛中学校では崖崩れがあった。

このように学校施設の災害復旧の被災世帯(家屋の全半壊、床上浸水)の児童・生徒への学用品支給を行った。

飯盛西小学校被害状況

項 目	被害面積等	被害金額	復旧工事完成日	事 業 費
校 舎	332.88㎡	2,300千円	57年11月27日	2,300千円
体 育 館	464.94	5,148	57年12月27日	5,148
体育倉庫	シャッター	92	57年9月27日	92
フェンス外	131.8m	2,853	57年12月20日	2,853
運 動 場	5,431㎡	4,441	57年9月30日	4,441
設 備	体育マット8 ストープ1	176		176
合 計		15,010		15,010

学用品支給状況

(小学校)

学 校 名		飯 盛 東 小 学 校							飯 盛 西 小 学 校					合 計
学 年		1	2	3	4	5	6	計	2	3	4	5	計	
人 数		4	6	2	4	2	1	19	5	2	2	1	10	29
教 科 書 等	国語	2	4	2	2	2	1	13	3	2			5	18
	書写	3	5	2	2	1	1	14	3	2			5	19
	社会	4	4	2	2	2	1	15	3	2		1	6	21
	図帳				2	1	1	4						4
	算数	2	5	2	2	1	1	13	3	2			5	18
	理科	3	4	2	3	2	1	15	3	2			5	20
	音楽	3	3	2	2	1	1	12	3	2			5	17
	図工	3	4	2	2	1	1	13	3	2			5	18
	家庭					1	1	2						2
	体育学習					1	1	3						3
わたしたちの長崎県				2	1	1	3		2				2	5
夏休みの友									4	2		1	7	7
笛			1	1	1		3						3	3
ランドセル	3	5	2	4	2		16	32	2	2		1	5	37
学用品一式									5	2	2	1	10	10

学用品支給状況

(飯盛中学校)

学 年	1	2	3	合計		
人 数	6	2	3	11		
教 科 書 等	国 語	2	1	2	5	
	書 写	3	1		4	
	社 会	地 理	4			4
		歴 史	4	1		5
		公 民			2	2
	地 図	5			5	
	数 学	3	1	1	5	
	理 科	第一分野	3	1	1	5
		第二分野	3	1	1	5
	音 楽	一 般	2	1	1	4
		器 楽	2	1	1	4
	美 術	2	1	2	5	
	保 健 体 育	3	1	2	6	
	技 術 家 庭	2	1	2	5	
	英 語	1	1	2	4	
副読本図解中学体育	3	2	1	6		
カ バ ン	4	1	2	7		
笛	3	1	2	6		

依頼を受けた3町消防団は450名の団員が救援活動のため28日来町、被災地の応急復旧のため、全面的なご協力をいただいた。

○森山町消防団

古場名補伽地区から里名田結橋まで、担当の7分団と流木の除去、土砂の除去活動を行った。

○小長井町消防団

里名田結橋から田平橋まで担当の8、9分団と田畑や河川にある流木や被災世帯から流失した粗大ゴミの除去、焼却作業にあたった。

○高来町消防団

田結て一ばる一帯を担当の6分団と流木の除去、粗大ゴミの除去、焼却作業にあたった。

③ 警察救援隊

1日も早い行方不明者の発見のため、海上捜索を重点的に、7月23日から31日まで9日間、延73名の協力をいただいた。

④ その他の協力

隣組やボランティアの人など町内外をとわず、給水活動や土石流の除去、浸水家屋の清掃に協力いただいた。

応援の救援活動

① 自衛隊

記録的な集中豪雨にみまわれた本町は、被害の全貌が明らかになるに従って、町内各地で予想以上の人的・物的被害が判明した。

対策本部は行方不明者の捜索、断水世帯への給水、土石流の除去、防疫等の応急復旧を急がねばならず、労力も不足したため、県社会課を通じて自衛隊の出動を要請した。

要請を受けた自衛隊は、陸上自衛隊小倉駐屯地第40普通科連隊720名が7月25日救援(助)活動のため来町、古場名補伽地区から里名一帯まで行方不明者の捜索を続け27日までの3日間、延2,160名、又、陸上自衛隊大村駐屯地第16普通科連隊12名、給水車4台が7月25日から3日間、延12㎡の飲料水を断水世帯へ給水した。

自衛隊の献身的、積極的な救援(助)活動の協力を感謝申しあげる。

② 北高3町消防団

7月27日、北高3町消防団に救援活動の応援を依頼、

町消防団婦人会活動

7月23日、大雨洪水警報が発令されると、役場内に災害対策本部を設置し、午後6時、団長、分団長に出動待機を要請した。時間経過とともに、たたきつけるような激しい大雨となったため、午後7時全消防団員に出動命令を発した。

出動命令を受けた各分団は、担当地区の危険箇所の巡視、避難誘導、生きうめ者の救出作業をおこなった。

7月24日からは、行方不明者の捜索及び遺体の搬出、家畜の死骸処理、土石流流入家屋及び浸水家屋の障害物除去作業、道路欠陥箇所の応急復旧作業、給水作業、防疫作業にあたり、29日まで精力的に活動し、被災地の応急復旧に努めた。

婦人会は7月24日から各地区において避難者への炊き出しを行った。又、不眠不休の救助作業にあたった消防団員や応援の消防団員にも炊き出しを行い、救助作業で疲労の極に達した団員に、ひとときの安らぎをあたえた。

活動状況

項目	消 防 団	婦 人 会
期 間	7月23日(金)～7月29日(木)	7月24日(土)～7月29日(木)
日 数	7	6
延人員	1,883	1,563

豪雨時の防災対策

長崎海洋気象台

7・23の長崎の大水害を教訓として、将来にその経験を生かすためには、行政はいうまでもなく、気象情報が末端まで届く努力をしなければなりません。住民のかたがたの防災に対する認識を新たにさせていただき、二度とあのような災害が起こらないようにしていく必要があります。

集中豪雨は短時間の現象です。地形でもその現象の現われかたが違いますので、その特徴をじっくり理解し、住んでいる地形を心得ておき、危険を感じたら一刻も早く避難することが大切です。

次にその対策として、考えられることを記しておきましょう。

集中豪雨は6月から10月にかけて最も多い

集中的な大雨は、停滞した梅雨前線に、南からの湿った空気が流れ込むのが原因ですから、6月下旬から7月の梅雨明けまでが最も多くなります。

夏が過ぎて、秋雨前線が停滞しているとき、台風が北上してきますと、思わぬ大雨になることがありますので、この時期も注意したほうが良いでしょう。

怖い、雷雨を伴った激しい雨

積乱雲は激しい上昇気流を伴います。10キロメートル以上の高さに達し、雷雨となることが多いので、雷鳴には注意しましょう。

豪雨は、強雨・小やみの繰り返し

集中豪雨は2、3時間くらいの間隔で強弱を繰り返します。積乱雲を発生させる低気圧は停滞したり、早い速度で移動するタイプなどがあって、その機構は複雑ですが「雨は小やみになった」とか「自分の所は雨は降っていない」などと油断することは禁物です。

新しい気象情報などに耳を傾けるようにしましょう。

雨量を測りましょう

集中豪雨を何時間も前に予報することは困難です。地域性の強い現象ですから、自分の所はどれくらいの雨が降ったのかを測ることも大切です。

雨量は、どこにも流れずにたまった水の深さのことで、周囲にさえぎる物がない所を選んで、上から下まで同じ大きさの容器にたまった水を物差しで測れば降水量になります。

例えば水の深さが1センチあれば10ミリ、10センチあれば100ミリとなります。また何時間にどれだけ降ったかということも目安にします。

1時間に50ミリ以上は災害の発生度合いが、大変大きくなりますので、直ちに避難することが賢明です。

雨がやんでも山・がけ崩れは起こります

避難命令が出たら、いち早く避難することはもちろん大切ですが、今までに崩れたことがないから大丈夫というのは危険です。雨があがったからと、早々に家に帰って片付けなどをしていて、災害に見舞われることがあります。雨が完全にあがって、安全を確認してから帰宅したほうが良いでしょう。

沢の出口は最も危険

土石流は「山腹から水が吹き出す」といわれます。ふだんは水の流れていない小さな沢は、豪雨時には一瞬のうちに濁流となる最も危険な場所なので、特に注意が必要です。

集中豪雨とは

集中豪雨とは、台風来襲に際して、300ミリ、400ミリの大雨・短時間に局地的に強く降る大雨も含まれています。いずれにしても、災害を度外視できる雨量でないことは確かです。このために1時間に50ミリ、24時間に200ミリ以上の雨を集中豪雨と考えれば、ほぼ慣用例に一致するようです。

その原因は、上空に北から冷たい空気が流れ込み、下層に湿った暖かい南からの風が強く吹き込んで、大気対流を起し、強い上昇気流が発生します。このため、時に10キロメートル以上の高さの積乱雲が発生し、雷を伴った大雨を狭い地域に降らせます。

このような状態になるのは、湿った空気が入り易くなって不安定となる梅雨末期のころです。梅雨前線があつて、台風が重なりますと、特に災害が大きくなります。

義 援 金 を お 寄 せ 頂 いた 方 々

(順不同
匿名希望除く)

氏 名	住 所
長崎県知事 高 田 勇	長崎市江戸町2-13
諫早市長 野 田 次 三	諫早市東小路町1
森山町長 橋 村 松太郎	北高来郡森山町本村名1300
長崎県社会福祉協議会	長崎市茂里町3-24
下 釜 秀 人	飯盛町開名
坂 本 哲 也	
市 丸 六 男	
渋谷 邦 百	諫早市東本町29
船 津 繁 次	飯盛町後田名
吉 次 健一郎	飯盛町平古場名
佐 藤 平太夫	飯盛町開名
寿々木 松 子	大村市原口町1040
石 松 芳 枝	佐賀県藤津郡嬉野町
老人クラブ福寿会	飯盛町開名
馬 渡 廣 雄	北高来郡小長井町小川原浦名833
北御門 文 栄	諫早市松里町103
船 津 キサエ	佐賀県藤津郡嬉野町
諫交自動車学校	諫早市栗面町280
若築建設(株)長崎出張所	長崎市栄町1-15石井ビル
団 一 大	飯盛町開名
山 口 俊 雄	飯盛町平古場名
(株)十 八 銀 行	長崎市銅座町1-11
県町村議会議長会	長崎市興善町6-24自治会館
土 橋 勝 利	埼玉県児玉郡上里町神保原420-6
笹 尾 昭	飯盛町開名
(株)大 容 産 業	鳥原市新湊丙2-2081
(株)ナチュレード 梅 崎 敬 之	東京都板橋区小茂根5-4
世界正食協会 岡 田 周 三	大阪市東区大手通2-5-1
鳥 越 重 信	飯盛町上原名
東彼北高社会福祉協議会	諫早市永昌東町25-8
北高4町職員親睦連絡協議会	
町 田 琇 弥	飯盛町里名
上 野 喜美子	広島県呉市焼山町123-205
浜 中 洋 子	広島県呉市押込町
小長井町職員一同	北高来郡小長井町小川原浦名500
飯盛町少年剣道育友会クラブ	飯盛町
泉 主 税	福岡市中央区春吉2-2-30
有家町民生委員協議会	南高来郡有家町山川58
諫早農業共済組合	諫早市宇都町22-70
西 本 願 寺	京都市下京区堀川通り花屋町下ル本願寺門前町
西本願寺仏婦連盟	西本願寺宗務所
森山町職員互助会	北高来郡森山町本村名1300
永 瀧 葬 儀 社	諫早市厚生町
富 川 末 敏	横浜市旭区左近山団地8-13-506
全国治水砂防協会会長 西村英一	東京都千代田区平河町2-7-5
山 口 沢 輝	北高来郡小長井町足角
金 丸 照 子	横浜市保土ヶ谷区五貫目町26-31
横 尾 真由美	全 上

氏 名	住 所
長里小学校児童会	北高来郡小長井町大峰名31
ライオンズクラブ国際協会諫早クラブ	諫早市高城町72平和ビル
会長 小沢 猛	
桐山 久子	久留米市野中町970-1
諫早農業共済組合職員一同	諫早市宇都町22-70
山口 泰治	飯盛町山口名
小長井町長 吉川 敏隆	北高来郡小長井町小川原浦名500
小長井町議会議員一同	全 上
飯盛町農業委員一同	飯盛町役場内
山内 小雪	飯盛町開名
高来町長 中原 肇二	北高来郡高来町湯江三部巻名528
小長井町青年団長 武富 為厚	北高来郡小長井町牧名
田中 勝男	京都府相楽郡加茂町大字美浪小字南51
宮崎 和樹	南高来郡小浜町北本町
(備)三高設計測量事務所	
山崎 一洋	飯盛町
北高連合婦人会長 佐藤 フヤ	北高来郡高来町
飯盛町婦人会	飯盛町
諫早断酒会	諫早市栄田町26-49県精神衛生センター
長崎西海建設	長崎市興善町2-8
諫早社会福祉協議会	諫早市東小路町1
愛野町給水指定工事指定業者一同	南高来郡愛野町本町
飯盛町駐在員一同	飯盛町
小島 名子供会	飯盛町開名
東京飯盛人会	東京都
志岐 咲江	福岡市東区下和白502-3
森山町交通指導員	北高来郡森山町本村名1300
森山町交通少年団	全 上
森山町商工会青年部一同	北高来郡森山町
飯盛町民生児童委員協議会互助会	飯盛町役場内
飯盛町老人クラブ連合会	全 上
県断酒連合会	佐世保市皆瀬町244
県町村議会議長会	長崎市栄町4-9県町村会館
浦野 勝美 外2名	東京都小金井市本町1-9-17
小峰 フエ	
橋元 才平	山口県下関市丸山町1-11-5
謝花 三千代	大阪府堺市土師町
長崎地区ライオンズクラブ	長崎市万才町7
北高小中学校生徒職員一同	
北高高校生保護者連絡協議会	
中島 久幸	東京都太田区西六郷4-31-10
中川 茂敏	
長崎県町村会長	長崎市興善町6-24
全国町村会長	東京都千代田区永田町1-11-35
福岡県下町村長、職員一同	
沖縄県下町村長、職員一同	

表

7・

発行日

発行

編集

印刷

4563

借り出したときは

- 本は大切に保管しましょう。
- 必ず期日を守りましょう。
- よごさないようにしましょう。
- 折目をつけないようにしましょう。
- また貸しをやめましょう。



田結川が決壊、氾濫、橋と民家1戸が流失した
西小学校前付近（清水名清水地区）



田結川が決壊、氾濫、橋と民家1戸が流失した
西小学校前付近（清水名清水地区）